

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

### ②施設・事業所情報

名称：	みもぞ保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	園長 中嶋 奈緒	定員（利用人数）：	80（95）名	
所在地：	226-0018 神奈川県横浜市緑区長津田みなみ台4-4-4 クリニックモールみなみ台1F（本園） 及び2F（分園）			
TEL：	045-479-7337	ホームページ：	<a href="https://mimoza-hoikuen.com">https://mimoza-hoikuen.com</a>	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日	2007年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：	株式会社Berry			
職員数	常勤職員：	24名	非常勤職員：	15名
専門職員	保育士	27名	栄養士	2名
	看護師	1名	調理員	3名
	用務員	0名		
施設・設備の概要	居室数：		設備等：	園庭、グラウンド、駐車場
	（本園） 保育室5、調乳室1 調理室1、事務室1 （分園） 保育室2、調乳室1 ホール1、事務室2			

### ③理念・基本方針

保育所が果たすべき役割として、一つは「日本の子育て環境、労働状況の急激な変化に伴い、保育ニーズが多様化する中で、子どもたちが安心してゆったりと、やる気いっぱいに育ちあう、生活・あそび・教育の場として、保育所が求められていること」もう一つは「次世代を担う子どもを育成する家庭を社会全体で支援するために、保育所が地域の信頼に応えながら地域の育児力を高め、保育問題を地域で解決していく役割を担うこと」この二つの重要性を受け止め、日々、子どもの生活態度とそれを取り巻く地域社会の把握に努め、保育の充実、運営の発展、児童福祉の増進を目指し、地域と積極的に交流を図り、保育所が地域と一体となって子育て支援に取り組む。このような社会貢献を目的としています。

#### 保育の基本方針

- 子ども一人ひとりが安心して自分らしさを発揮できる生活環境を作り、「思いやり」「意欲」「自主性」「集中力」「創造力」を育てます。
- 『異年齢グループ保育（3～5歳児）』  
異年齢グループを軸とした子どもと子どもの自然なかかわり合いによって互いに違いを認め合いながら、協力し合う育ち合いの保育を目指します。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

みもぎ保育園は、緑豊かな住宅街にあります。近隣には大きな公園があり園庭のエントランスのみもぎは春には黄色い花をたくさんつけ、園庭のけやきは夏には心地よい日陰を子どもたちに提供し、秋には落ち葉となって子どもたちに楽しい遊びをたくさんプレゼントしています。園の畑では、きゅうり、トマト、なすなどいろいろな野菜の栽培を体験します。土づくりから種まき、水やりなどのお世話をして収穫も楽しみます。近隣の畑でのさつま芋の収穫体験も行います。たくさん収穫し、おやつに出してもらったりして、楽しんでいます。土の中の幼虫を観察したり、野菜や土のにおいや感触を楽しんだりしています。このように子どもが自然に触れながら、五感を使ってのびのびと遊べる環境づくりに取り組んでいます。さらに天然芝のグラウンドでは走ったりボール遊びをしたり楽しく遊びながら体力づくりをしています。また運動会、生活発表会、七夕、お月見などの行事も大切にしています。ほかにリトミック・英会話・体育教室があります。このように多くの体験ができる機会を提供し、子どもの豊かな育ちをはぐくんでいます。そして子どもの成長には食事が大切と考え、食育にも力を入れています、給食は天然の味と素材を大切にし、新鮮な野菜や安全な食材を使ってバランスの良い食事を手作りして提供しています。園では子どもたちの豊かな感性をはぐくむための環境設定に力を入れ、階段や玄関の季節ごとになるディスプレイは専門家に依頼しています。3～5歳児は異年齢グループで生活し、育ち合いの保育を目ざし、温かな家庭的な保育の実践に努めています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月23日 (契約日) ~ 2022年12月23日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	2 回 ( 2017 年度)

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

##### ◆ソーシャルワーク技術を習得し、実践に反映されることを期待します

当園では、電話による育児相談を受けつけ、保護者の育児の悩みを共有し、専門職として助言を行っています。さらに園見学者や地域交流事業「きらきらひろば」の参加者を育児相談につなげるなど、アウトリーチによる潜在的な相談需要を掘り起こしています。家庭、地域、社会の変化により保護者のニーズも多様化し、これに伴い保育園の役割も変化し、特に相談援助の機能が強く求められている、と振り返っています。このような課題に対し、当園ではソーシャルワークの技術によって保護者のニーズに対応したいと考えています。外部研修、園内研修などを通じて、職員がソーシャルワークの知識・技術を習得し、実践に活用されることを期待します。

##### ◆自然との触れ合いの中で子どもの豊かな感性をはぐくんでいます

日々子どもたちは近隣の自然豊かな公園や園庭、グラウンド等で四季折々の日本の豊かな自然に触れあっています。エントランスのみもぎは春に黄色の花をつけ、園庭のけやきは夏には心地よい日陰を提供し、秋には落ち葉となり子どもたちに自然の移ろいを感じさせてくれます。園庭では土に触れ昆虫に興味を持ち、夏野菜やさつま芋などの収穫体験をするなど、さまざまな野菜の栽培から収穫までを通じて食育にも力を入れています。このような環境の中、一人ひとりの子どもが五感を使い自分で遊びを見つけ、のびのびと主体的に活動し、豊かな感性を磨いています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍での生活も3年となり、5年前の受審とは変わった新たな保育環境の中での受審となりました。

保育園を取り巻く社会も大きく変化し、その中で園の在り方も変わっているように思います。そのような中、日々試行錯誤しながら「子どもたちのために」できることを振り返り、改善していく事の重要性を改めて全職員が考える機会となりました。

評価委員の方々には、保育の細かいところまで評価していただき、日常の中で何気なく当たり前に行っていることを「非常に良い点です」と言っていただいた事はとても励みとなり、自信にも繋がりました。今回いただいたご意見、アドバイスを保育、運営に生かしてまいります。

保護者の皆様には、アンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。高い評価をいただいた点、改善が必要な点、そして新型コロナウイルス感染症対策の中での保育の工夫をご理解くださりながらも、その中での気づきやご要望など様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。

今後も子ども一人ひとりを大切に保育し、より良い園を目指して努力して参りたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり